

秋葉山しんぶん

平成23年
第4号



錦生地区の文化遺産活用と能楽の情報発信(梅原猛氏シンポジウム)等が採択されました!

平成23年8月20日号 発行: NPO 赤目の里山を育てる会 <http://akame-satoyama.org/>

ごあいさつ ~昨年度に引き続き、名張市が文化庁事業の採択を受けました!

日頃は、皆様の赤目の森の活動への温かいご理解・ご厚情を頂戴し、誠にありがとうございます。

このたび、文化庁が公募した「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」に、名張市教育委員会と協働で提案し、採択されました。昨年度事業は事業仕分けの結果中止になりましたが、昨年度の実績を基に、対象地区を錦生地区に広げ、名張市教育委員会事業であることも能楽囃子教室の支援、能楽をテーマとするシンポジウム(梅原猛氏講演会)を含む内容にて、継続して取り組むこととなりました。今年度も、引き続き獅子舞の復活や体験プログラムの検討などを通して、地域内外の人たちとの交流の機会をつくり、地域の活性化に貢献できるような活動に取り組んでまいります。皆さま方のご協力をお願いいたします! NPO 赤目の里山を育てる会 理事長 伊井野雄二

◆今年度の事業概要＝「名張の伝統芸能等の活用・伝承事業」の採択内容について 〈文化庁・平成23年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業〉

○今年度採択された事業の内容

昨年度から事業が変わり、内容も上三谷を含む錦生地区全域に広げ、獅子舞を含む地域伝統芸能をテーマに、体験プログラムの開発などにも取り組むことになりました。また、来年3月には梅原猛氏の講演会と伝統芸能の披露によるシンポジウムの開催も予定しています。

1 伝統芸能の復興による、地域コミュニティ活動の活性化と観光振興

- (1) 白山・秋葉神社の獅子神楽～道具の修復と上三谷流獅子舞の復興
・上三谷流獅子神楽の復興と、錦生地域全体の獅子神楽など伝統芸能の情報収集、資源としての活用方法の検討
- (2) 秋葉山山頂の旧境内地でのイベントの実施
・上記伝統芸能の干涉・体験や、歴史・文化探訪の体験プログラムづくり、モニターツアーの実施による検証

2. 子どもたちへの伝統芸能(能楽、囃子、雅楽、音頭等)の伝承事業

- ・京都からの講師招聘による子どもたちへの指導
- ・太鼓の借用、衣装用生地購入、発表会の開催

3. 伝統芸能を普及啓発するための「地域伝統芸能シンポジウム」実施

- ・梅原猛氏を招いての講演会(基調講演)および、「子ども伝統芸能」「名張の獅子神楽」「能楽」等伝統芸能披露の機会創出。
- ・上記をシンポジウムの形式で開催するに際しての企画、運営

○今後の研究会の進め方

研究会では、1月の獅子舞の復活にむけて、以下のようなスケジュールを予定しています。各活動の経過については、昨年同様、『秋葉山しんぶん』にて、随時お知らせしていきます。

第1回研究会
開催・今年度
活動内容確認
9月16日

上三谷の秋祭・
錦生地区の獅子
神楽にあわせた
モニターツアー
11月1～3日

上三谷流獅子舞
の伝承・復元
第2回、第3回
研究会
12月予定

秋葉神社鎮火祭
1月16日
上三谷流獅子舞、
太鼓の復元披露

名張の能楽・
梅原猛氏シンポジ
ウム開催(名張
ADSホール)
3月中旬

第4回研究会
3月下旬
報告書とりま
とめ

【文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業】

地域の文化遺産を活用し、観光振興などにより、地域経済の活性化・雇用創出などを図る事業。

昨年度の「地域伝統文化総合活性化事業」が1年で終了になりましたが、継続分は本事業に引き継がれ、1年目より地域活性化効果を意識した事業内容で採択されました。

【コラム：梅原猛氏と名張の能楽について】

名張市は「観阿弥創座の地」です。梅原猛氏は、「伊賀小波田(名張市)にて観阿弥は観世の座を創座した」という学説を発表、平成21年1月に『うつぼ舟Ⅱ 観阿弥と正成』として角川学芸より書籍を出版し、全国に名張と能楽のゆかりについて発信されています。その他にも能楽関係の著作も多く発表されています。

梅原猛(うめはらたけし)。哲学者、作家。1925年宮城県生まれ。1948(昭23)年京都大学哲学科卒。京都市立芸大学長、国立国際日本文化研究センター所長などを歴任。



事務局からのお知らせ

○事務局がヒアリング調査を実施します。ご協力をお願いいたします。

○獅子舞・太鼓の復活にむけ、多くの方の参加を募集しています!! 地元の皆さん、赤目の里山に集う皆さん、お気軽にお声かけください。

〈お問い合わせ先〉赤目の里山を育てる会 TEL:0595-64-0051

mail:office@akame-satoyama.org

